

第3学年 英語科 学習指導案

令和6年11月27日（水）第5校時

- 1 単元名 Unit 2「Our School Trip」・Unit 3「Lessons From Hiroshima」(Here We Go! 3)
から「日本の古都の魅力とそれが抱える問題点」をALTに伝えよう
～社会問題（オーバーツーリズム）について考える～

2 単元について

本単元は、「日本の古都（京都・奈良）の魅力と問題点」をALTに知ってもらうために、事実や根拠を伴いながら自分の考えや気持ちなどを話すことを目指している。基になっている題材は、一学期に学習したUnit 2とUnit 3の内容（登場人物たちが修学旅行先で、クラスメートとしての関係を深めたり広島を学ぶことで平和について意見交換したりするストーリー）である。今年度、修学旅行で訪れた、京都や奈良の様子を思い出し、人気観光地としての魅力を再発見していく。また、社会問題（オーバーツーリズム）が地域やそこに住む人々に与える影響にも視点を広げていく。これらのプロセスを踏むことで魅力と問題点の双方にアプローチしていき、これまで学んだ言語材料や表現を駆使しながら、事実や根拠、理由を伴った伝え方でALTに自分の考えや気持ちなどを伝えていく力を育むことのできる単元となっている。

3 生徒の実態について

※当日配布

4 指導について

「Learning by Doing」。英語は使いながら学んでいくものであると考えている。ここで言う「使う」とは、単なるリピートやドリルの様な練習ではなく、必然性のあるインプットやアウトプット場面の中で、使用する言語材料を制限することなく自分の考えや気持ちを伝え合うことである。必然性をつくり出す手段として、言語活動に「目的や場面、状況など」や「相手意識」の要素を取り入れ、言語活動をより現実世界のものへと近づけたり、「やり取り」で生徒の本当の考えや気持ちを引き出したりすることを意識しながら指導を行っている。

アウトプットの中では、生徒自身に「言いたいこと」と「言えること」のギャップ（言語能力の穴）に気づかせ、各々が必要感を持ってインプットに戻るというサイクルを生み出すことが言語習得に必要不可欠であると考えている。

また、生徒に英語を使用させて終わりにするのではなく、フィードバックを内容面と言語面の両面に当てることを大切にしている。内容面へのフィードバックでは、自分の考えや気持ちなどを整理、再構築することで発話内容を広げたり深めたりすることにつながっている。言語面へのフィードバックでは、同じ内容をパラフレーズしたりコレクティブフィードバック（主にリキャスト）をすることで文法や語彙を補ったりして、正確性を高めている。このように 両面への強化を粘り強く繰り返していくことで、社会に出てからも生きる即興力をつけていきたいと考え指導に当たっている。

5 単元の目標

京都・奈良の魅力や問題点を ALT に知ってもらうために、事実や根拠を伴いながら、自分の考えや気持ちなどを話すことができる。

- ・これまで学んできた言語材料や表現、言語の働きを理解し、伝え合う技能を身に付けている。 〈知識及び技能〉
- ・ALT に古都の魅力と問題点を伝えるために、事実や根拠などを伴いながら、自分の考えや気持ちなどについて伝えている。 〈思考力・判断力・表現力等〉
- ・ALT に古都の魅力と問題点を伝えるために、事実や根拠などを伴いながら、自分の考えや気持ちなどについて伝えようとしている。 〈学びに向かう力、人間性等〉

6 単元の評価規準

(本単元における「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと[やり取り]」については、目標に向けての指導は行うが、本単元内で記録に残す評価は行わない。)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと [発表] (発)	<p>〈知識〉</p> <p>①これまでに学んだ言語材料や表現、言語の働きを理解している。</p> <p>〈技能〉</p> <p>②古都の魅力や問題点について考えたことや感じたことをこれまで学んだ表現などを用いて正確に伝え合う技能を身に付けている。</p>	ALT に古都の魅力と問題点を伝えるために、事実や根拠などを伴いながら、自分の考えや気持ちなどについて伝えている。	ALT に古都の魅力と問題点を伝えるために、事実や根拠などを伴いながら、自分の考えや気持ちなどについて伝えようとしている。

7 単元の指導と評価の計画（4時間扱い）

時	◆ねらい ○活動	評 価			
		知・技	思・判・表	態度	◎評価規準〈評価方法〉
1	<p>◆単元の目標を理解する。</p> <p>◆修学旅行を思い出し、楽しかったことや印象に残っていることを伝え合う。</p>				本単元においては、第1校時から第3校時まで、目標に向けた指導は行うが、記録に残す評価は行わない。
	<p>○Unit 2 をやり取りで振り返る。</p> <p>○メモ等で自分の考えを整理し、それを基にペアやグループで対話をする。</p> <p>○クラスメートの考えなどを聞いて、自分の考えを再構築し、発話内容を強化していく。</p>				
2	<p>◆事実や根拠を伴った発話は、聞き手にとってどのような効果があるかを考える。</p>				
	<p>○事実や根拠を伴った伝え方の効果について意見を出し合い整理する。</p> <p>○論理的な構成や展開（「意見」→「理由」→「例/エピソード」→「意見」など）を意識して、修学旅行の思い出をクラスメートに話す。</p>				

3 本 時	◆京都・奈良の魅力と問題点を考え、教師の話を基に自分の考えを整理し伝え合う。				
	○京都・奈良の魅力を再発見したりそれらが抱える問題点を捉えたりする。 ○教師の提案を聞いて、賛成・反対の立場を明らかにしたり、相手の主張する内容と関連させて、自分の考えや気持ちを整理し伝え合う。 ○クラスメートや教師の意見から自分の考えや気持ちを再構築し表現を広げていく。 ○次時に自分の発話の広がりや正確性の向上に迫れるよう、タブレットに自分の発話を録音する。				
4	◆ALT に、京都・奈良の魅力や問題点を事実や根拠を伴いながら、自分の考えや気持ちなどを話す。				
	○タブレットに保存した発話を文字に起こし、新たに話題を広げたり正確性を高めたりにことにアプローチする。 ○ALT に京都の魅力や問題点をプレゼンする。 ○オーバーツーリズムによる問題を軽減させる策を考える。	発	発	発	◎これまで学んできた言語材料や表現、言語の働きを理解し、正確に伝え合う技能を身に付けている。 〈タブレット録音分析〉 ◎ALT に古都の魅力と問題点を伝えるために、事実や根拠などを伴いながら、自分の考えや気持ちなどを伝えている。 〈タブレット録音分析〉 ◎ALT に古都の魅力と問題点を伝えるために、事実や根拠などを伴いながら、自分の考えや気持ちなどについて伝えようとしている。 〈観察〉

8 本時の展開

目標 京都・奈良の魅力と問題点を考え、教師の話に基づき自分の考えを整理し伝え合うことができる。

準備 教科書、タブレット

○展開 (3/4)

過程	○学習活動 ・ 学習内容	・ 指導上の留意点 ◎評価〈方法〉
導入 12分	<p>○あいさつをする。</p> <p>○即興チャットを行う。 テーマ「もう一度修学旅行に行くならどこに行きたいか」を伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマについてペアで話し合う。 ・ クラスシェアを行う。 ・ 中間指導で自分の表現を広げていく。 <p>○本時の目標を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 京都・奈良の魅力と問題点を考え、教師の話に基づき自分の考えを整理し伝え合おう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の背景知識（スキーマ）を刺激するために、「人気観光地」→「その特徴」→「自分が行きたい場所」とプロセスを踏んでいき、発話につなげていく。 ・ 教師のモデリングや T-S のやり取りを十分に行い、生徒のアウトプットにつながるインプットを十分に行ってからペア活動を行う。 ・ 内容面だけでなく、リキャスト等で言語面にもフィードバックを行い、正確性も高めていく。
展開 35分	<p>○京都・奈良の魅力とそれらが抱える問題点を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小グループで話し合い、それぞれの魅力や問題点について意見を出し合う。 ・ クラスシェアを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が整理して話し合えるよう、魅力と問題点を別々に考えていく。 ・ やり取りで、自分の経験や事実などを引き出していく。 ・ 現地が抱える現状やそこに住む人の心情にも視点がいくように支援する。

	<p>○教師の提案を聞き、自分の考えや気持ちをクラスメートと伝え合う。</p> <p>教師の提案</p> <p>「We should change the place for your school trip from Kyoto to other places.」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の提案を聞き、要点を捉える。 ・自分の考えや気持ちを整理しペアで話し合う。 ・意見交換をし、自分の考えや気持ちを再構築する。また、事実や根拠の有意性を考えながらクラスメートと伝え合う。 <p>○発話をタブレットに録音する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が「自分の考えを伝えた上で生徒の考えを知りたい」といった内容を生徒に伝え、活動の見通しをもたせ、学習意欲を高めていく。 ・必要に応じて、メモをとってもよいことを伝える。 ・自分の意見を主張する際には、相手の意見に対して、賛成・反対の立場を明らかにしたり、相手の主張する内容と関連させて、自分の考えやその理由を述べたりすることを引き出す。 ・必要に応じて、事実や根拠の伝え方をクラスで共有する。 ・録音したものは、次時に、自分の発話の広がりや正確性の向上につなげる目的があることを生徒に伝える。
<p>ま と め</p> <p>3 分</p>	<p>○今日の振り返りをする。</p> <p>○あいさつをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標に対しての自己評価を促す。また、クラスメートの発表の上手だったところや自分に取り入れたいところを明確にしていく。